

会員みなさまの紹介・・・多賀清流の里（犬上郡多賀町）

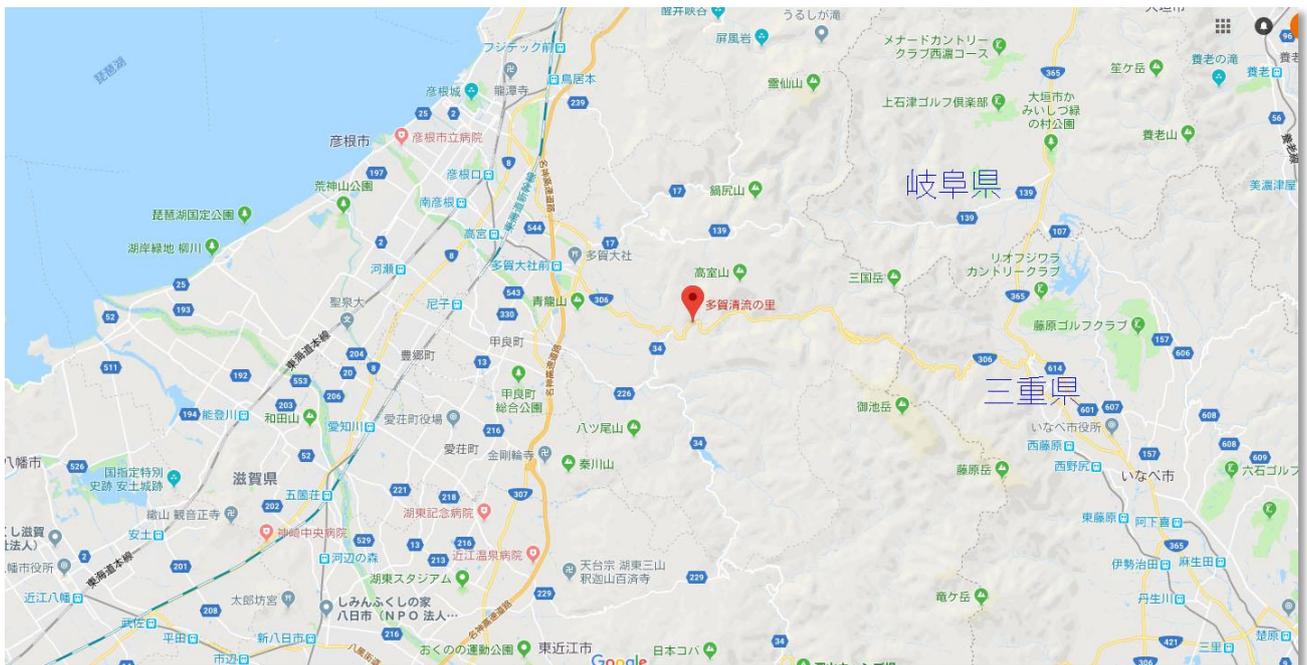
- ◇ 地域とともに
- ◇ 地域まちづくり委員会 & 自警団
- ◇ 共通認識の醸成

◆地域とともに

多賀町は、緑濃い鈴鹿山系の山々の麓、美林や芹川、犬上川の清流が広がる自然の宝庫で、岐阜県と三重県に隣接しています。その中でも多賀清流の里のある「佐目（さめ）」という地域は、国道306号線に沿って民家の建つとても山深いところです。

平成23年にははじめた地域との関わりは、今年で丸7年を迎えます。

地域との関係を深めなければいけないと強く感じた理由は、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災のニュースを見てのことでした。その年の4月に赴任した多賀清流の里は山間部、冬は湖東圏域では豪雪地帯です。万が一近畿や滋賀県で未曾有の大震災が発生したら、最悪の場合、孤立するということを想定しました。以前からも地域との関係は続いていましたが十分とはいえず、防災をともに考えるという点では課題でした。



多賀清流の里の位置。距離的には琵琶湖よりも岐阜県・三重県に近い。

◆地域まちづくり委員会と自警団

早速、施設内でも防災委員会やBCP作成委員会を立ち上げ、活動を開始しました。そして、何よりも地域との連携が不可欠であること、地域の協力なしでは防災対策は整わないと考えました。

地域との関係性は、まず、施設側が地域に入ることから始めました。佐目区の「地域まちづくり委員会」に入会し、3つの委員会（防災部会・環境部会・健康推進部会）で活動を始めました。また、総務部会の役員の方は、施設の清流祭（納涼祭）の実行委員として毎年参加されています

防災に絡めた内容では、職員が佐目区の「自警団」に入り、毎月第2日曜日に消火訓練等を行っています。これも丸7年継続、参加するスタッフもすっかり地域へ溶け込んでいます。



毎年、1月初めの日曜日にあり、多賀町消防出初式の様子です。(上段)

出初式の中で、各字の自警団が一斉に放水します。(左写真)

◆火おこしや炊き出し訓練

「施設の避難訓練・防災訓練では、熱源等が使用不可を想定し、まきからの「火おこし・炊き出し訓練」を行っています。この炊き出し訓練は、地域の方も含め平成27年から始めて今年度で3回目となります。訓練の計画は、非常食の管理を行っている管理栄養士が行い、参加するのは施設長・課長・防火管理者・防災委員の職員です。今回からOTも参加しています。地域からは、区長さんに自警団長さん、また、まちづくり委員会の防災部会の委員さんが参加され、施設で備蓄している非常食（期限切れ2か月前のもの）を使い炊き出し訓練を行っています。

非常食を使った訓練は、どれも区民の方の協力で実施しています。実際に火おこしなどは職員も経験がなく、ほとんどが区民の方に頼るしかない状況でした。昔とった杵柄ではないですが、訓練実施の通知を佐目区に出すと、まきや炊き出しに必要なものを準備して参加され率先して活動していただいています。



ブロックを使い、かまどに見立て、火をおこし、味噌汁・お湯を沸かします。



◆ 共通の認識

地域の方の施設に対する積極的な活動は、まだまだ、数多くありますが一貫して共通していることは

- ① 防災という同じ危機感があったこととその共有を行ったこと
- ② 集落の高齢化と地域の方の知恵と経験×施設職員の若年層という相互に足りないところを補い合える「利点」がある

と考えたことです。地域と施設のマイナス面ばかりを見るのではなく、マイナス×マイナスはプラスという発想で物事を考えていった結果であると考えます。「逆転の発想」という聞こえはよいのですが「今、あるものをどのように使ったらよいか?」「ないものを考えたり、望んだりするのではなく活かせる工夫は?」と頭を切り替えることだと思いました。地域の中でも「何かあったらどうしよう」「防災に取り組まなければ」の思いは持たれていました。防災は自分たちが待っている、間に合わない事態がおこるかもしれないという「危機感」が地域と施設の双方を動かしたのだと思います。「相手の懐に入り思いを共有していく」はまさに地域づくりの始まりであると考えます。

どこの地域どこの施設でも同じことで、相手と話し合い理解し合うという姿勢がよい結果を生むことに繋がると感じます。そのためには、何事も根気よくあきらめず地域を信頼し、職員を信頼していくことが大切と考えます。





毎月の訓練の様子です。
施設の裏に流れる犬上川でポンプを使い、消火訓練を佐目区の人と行っています。

今も、「ちょっと、草むしりしといたで！」「鉢植えを作ったので飾って！」「施設の玄関に角松がないので立てに来たで！」と気軽に声をかけられ、職員も地域の人々の行動に心が和む毎日です。

(多賀清流の里 施設長 湯本佳代子)